

[平成29(2017)年3月20日]

日本経済新聞

金沢大学 後藤典子教授らは、肺がんの分子標的薬「イレッサ」に耐性になった肺がんに対して、イレッサにがんの増殖に関わる遺伝子の働きを抑えるRNA（リボ核酸）を併用すると、再び効果を示す可能性があることを見いだした。

肺がん薬「イレッサ」 RNAで耐性抑える

得してしまふことがある。研究チームは、イレッサが効かなくなった人の肺がん細胞では、増殖に関わる特定の遺伝子の働きが高まっていることを明らかにした。耐性になったがん細胞にイレッサを加え、さらにこの遺伝子に結合して働きを止めるRNAを併用したところ、再びがんの増殖を抑えるようになった。5年以内に、イレッサが効かなくなった患者らを対象に、医師主導の臨床試験（治験）の実施を目指す。